

■保岡勝也 建築家、造園家。明治期に三菱の丸の内赤煉瓦オフィス街を完成させ、大正以降は先駆的な住宅設計。

やすおかかつや

西南戦争・ 1877＝ 東京で生まれる。

明治14年政変1881＝ 4歳：

帝国大学始・ 1886＝ 9歳：

帝国憲法発布1889＝12歳：この年、三菱合資会社が明治政府より丸の内の一括払い下げを受け、丸の内建築所を設置、

日清戦争始・ 1894＝17歳：この年、ジョサイア・コンドルによって、「三菱一号館」が竣工。

日清戦争終・ 1895＝18歳：

東京帝国大学建築学科に入学、辰野金吾に師事し、

卒業論文は銀行建築を取り上げ、卒業設計も「Design for Natinal Bank」を制作、

大正7年国産化・ 1900＝23歳：「高崎倉庫本社11号倉庫」設計指導。卒業。三菱合資会社入社し、曾禰達蔵の下で丸の内赤煉瓦街の設計に携わるが、

教科書疑獄・ 1902＝25歳：「早稲田大学附属図書館」。退社し、東京帝国大学大学院に入学し、劇場建築を研究。「大隈重信伯爵邸洋館」では日本で初めてシステムキッチンを導入、以後、住宅設計に関心が向う。

日露戦争始・ 1904＝27歳：建築学会評議員兼編輯員。翌年にかけて、{建築雑誌}に「住家の室内装飾に就て」連載。大学院修了後、三菱再入社して丸の内三菱赤煉瓦街「第4・5号館」の設計に関与し、

日露戦争終・ 1905＝28歳：「東京予備病院渋谷分院傷病兵集会所」「慶應義塾商工学校講堂」。

満鉄発足・ 1906＝29歳：「第2回東京勲業博覧会三菱館」「三菱門司支店」。建築学会の評議員。***定年退社した曾禰に代わり、丸の内建築所の技師長に就任、以降、丸の内一丁倫敦の設計の総指揮を取り、**

韓国反日暴動1907＝30歳：「第8～11号館」、

アラビヤ創刊・ 1908＝31歳：「三菱長崎支店唐津出張所(唐津市歴史民俗資料館として現存し佐賀県指定重要文化財)」。研究のため欧米に出張を命じられ、

伊藤博文暗殺1909＝32歳：帰国。曾禰が委員長を務める東京市建築条例起稿委員会委員。岩崎家が英国からの国賓をもてなす施設「深川別邸池辺茶亭(現東京都清澄庭園涼亭で東京都選定歴史的建造物)」、

韓国併合・ 1910＝33歳：「第12号館」「三菱大阪支店」、

大逆事件判決1911＝34歳：「高崎倉庫本社倉庫・大橋町倉庫」「柏原洋紙店」。 「第13号館」「静嘉堂文庫」、

明治天皇没・ 1912＝35歳：「第14号館」で日本初の鉄筋コンクリート構造を用い、「第21号館」までの設計を完了。病気を理由に、三菱を退社し、以後は嘱託契約。この間、会社の了解得て住宅等も設計し、作品集「新築竣工家屋類纂」出版。

大正政変・ 1913＝36歳：「三菱若松支店(上野海運ビルとして現存)」。***東京銀座に{保岡勝也事務所}を開設、先駆的な住宅設計や勃興してきた中産階級を対象に住宅設計の書籍の著述などを意欲的に行って行く。「第14・15号館」が竣工。**

第一次大戦始1914＝37歳：「中井銀行浦和・千住支店」「木内重四郎邸和館」「東京大正博覧会諸売店」「富山房書肆」「小沢慎太郎商店」「睦屋商店」。 「第21号館」が竣工し、赤煉瓦街が完成。

21ヶ条要求・ 1915＝38歳：「倉持商店」「国分商店」「榮太樓貸事務所」「田嶋屋商店」「鈴木セメント製造所大煙突」。川越の豪商5代目山崎嘉七の知遇を得て、まず「川越貯蓄銀行本店」を設計。著作「理想の住宅」、

民本主義・ 1916＝39歳：「秩父銀行」、

ロシア革命・ 1917＝40歳：「中井銀行本店」、

本格政党内閣1918＝41歳：「鈴木家葉山別荘」。***代表作となる「第八十五銀行本店」を設計、埼玉県にその銀行川越支店として現存し、埼玉県における国の登録有形文化財登録第1号となっている。**

ベルサイユ条約・ 1919＝42歳：「中井銀行神田支店」「井田商店」。日本庭園協会の設立に参加。

原敬首相暗殺1921＝44歳：「熊本商業会議所」。中央公論社創設者の「麻田駒之助邸和館(平野邸として現存し国の登録有形文化財)」、

水平社結成・ 1922＝45歳：

関東大震災・ 1923＝46歳：著書「最新住宅建築」、

護憲三派圧勝1924＝47歳：「第八十五銀行本庄支店」。著書「日本化した洋風小住宅」「改訂増補最新住宅建築」。東京高等造園学校で「茶室と茶庭」の講義を担当、以後、茶室建築の研究に没頭。

治安維持法・ 1925＝48歳：著書「欧米化した日本小住宅」「小住宅の洋風装飾」。数寄屋造りの和室が融合されたホール形式の洋館「山崎家別邸」を設計、現存し、庭園は埼玉県内で初の国の登録記念物に登録されている。

円本時代始・ 1926＝49歳：著書「洋風小売商店の建てかた」「建築智識理想の住宅」。 「長崎次郎書店(現存し国の登録有形文化財)」。

金融恐慌・ 1927＝50歳：著書「和風を主とする折衷小住」「洋風を主とする折衷小住宅」。著書「茶室と茶庭」。

共産党事件・ 1928＝51歳：著書「茶席と露地」「増補茶室と茶庭」、

世界恐慌・ 1929＝52歳：「第八十五銀行小川支店」、

海軍軍縮条約1930＝53歳：著書「数寄屋建築」、

満州事変・ 1931＝54歳：「第八十五銀行松山支店(現東松山市文書庫)」「川越貯蓄銀行飯能支店」。東京高等造園学校の常任理事。

五一五事件・ 1932＝55歳：「吉田家住宅」、

国際連盟脱退1933＝56歳：「川越貯蓄銀行本店」。著書「住宅の重要設備」。著書「門・塀及垣」、

二二六事件・ 1936＝59歳：「第八十五銀行志木支店」。東京高等造園学校で「露地と茶室」「造園設計」の授業を担当。川越に埼玉県初のデパート「山吉デパート(現保刈齒科醫院)」を設計し、遺作となった。

日中戦争始・ 1937＝60歳：「千明仁泉亭鶴之居」、

大政翼賛会・ 1940＝63歳：著書「門・塀及垣」を改題し温室の項も追加。脳溢血で倒れ、

日米開戦・ 1941＝64歳：

・・・・・・ 1942＝65歳：戸塚で静養中に、没した。